

6/15 五曜

# 権力は暴走する

## 冤罪被害者・免田栄さんが告発

福岡・大牟田

「アベ政治を許さな  
頭で週2回、夕方30分間



スタンディングに参加する(左から)免田栄さんと妻の玉枝さんら。福岡県大牟田市

いのプラカードを掲げ、福岡県大牟田市の街頭で週2回、夕方30分間

# ストップ 共謀罪

## 不誠実な政府の答弁

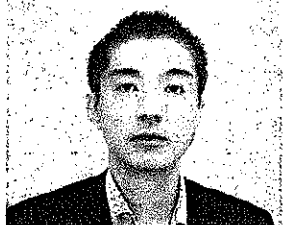
滋賀弁護士会長  
佐口裕之さん

18日の国会会期末を前に「共謀罪」法案は予断を許さない状況です。会期を延長することなく廃案にし、憲法違反の法案は一度と出すべきではありません。

私は「共謀罪」法案のテロ対策という目的がまやかしてあり、時の政府にとって都合の悪い国民の活動を監視し、国民の自由への萎縮効果をもたらす悪法であるとして、一貫して反対活動を行っています。街頭での宣伝や「共謀罪」の危険性を市民と一緒に考えようと思

は、「共謀罪」法案のテロ対策という目的がまやかしてあり、時の政府にとって都合の悪い国民の活動を監視し、国民の自由への萎縮効果をもたらす悪法であるとして、一貫して反対活動を行っています。街頭での宣伝や「共謀罪」の危険性を市民と一緒に考えようと思

は「共謀罪」の新設が非常に不誠実だと思



は「共謀罪」の新設が非常に不誠実だと思

は「共謀罪」の新設が非常に不誠実だと思

ます。毎回20人以上が参加する行動には、冤罪(えんざい)事件の被害者で死刑確定後に再審無罪となった、同市在住の免田栄さん(91)の姿があります。

3年後に死刑判決が確定しますが、周囲の支援もあり裁判のやり直し請求を決意します。家庭の事情などで学校にほとんど通えず、「あいうえお」も書けなかったとお話す免田さん。裁判長に心づいた免田さんは、948年未の事件発生の日、免田さんには、関与を否定する確かなアリバイがありました。警察は事実を捏造(ねつぞう)し、睡眠をさせずに拷問を続け、免田さんは警察のつくった筋書き通りに自由を強要されました。

6次にわたる請求で再審が受理された後、無罪判決が確定したのは1983年。34年の獄中生活は、当初から警察が後ろ盾にする国家権力との対峙(たいし)を繰り返してまいりました。

「共謀罪」による冤罪の増加を危惧します。「警察がストーリーをつくらせて、向こうの思いのままになってしまふ。怖い法律だと思います」

問題で安倍政権はうさぐさという空気が国民の間で広がっていると思

加してきた免田さんは、市内中心部の国道沿いで「絶対反対 共謀罪」などのプラカードを手にサイレントアピールを続けていました。

熊本県で生まれ育った免田さんが無関係の強盗殺人容疑で逮捕されたのは、23歳の時でした。1948年末の事件発生の日、免田さんには、関与を否定する確かなアリバイがありました。

時(たいじ)を、いや応なしに意識させました。逮捕後の取り調べで「われわれは天皇陛下から公職を拝命した警察官だ。百姓が何を言うか」と、どう喝されたからです。

戦時中、免田さんは海軍兵器工場に動員された長崎県大村市で、空襲による工場の壊滅や長崎の原爆投下後のまのこ雲を目にしました。安倍政治を見るにつけ、戦争に突き進んだ天皇制国家の復活を狙う勢力が暴れだそうとしていると危機感を強く感じています。

聞き手・写真 滋賀県・浜田正則